

# 2022年度 学校関係者評価報告書

評価対象期間 自：2022年4月1日  
至：2023年3月31日

評価基準日 2023年4月1日

学校法人栗岡学園  
阪奈中央リハビリテーション専門学校  
日本語科

学校関係者評価 評価委員

(敬称略)

委員長 米澤 泰司

委員 大原 敏敬

委員 宮野 博

委員 前原 園代

委員 川原 勲

委員 酒井 真紀

委員 谷川 優香

評価項目の達成および取組状況

1 教育

2 施設・設備

3 学生サービス

4 教育面などでの特筆すべき取り組み

自己評価回答責任者：

副校長 米澤 博隆

日本語科主任 吉田 佳純

事務主任 伊丹 朋子

## 教育分野 日本語科

### 1 教 育

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
1. カリキュラムは貴校の教育目標をどのように反映していますか	当科は、将来の医療（主に介護）人材を育成するため、社会の一員として自立・自律できる人間を涵養することを教育目標に掲げている。上記目標の下、日本ででの生活や資格外活動にマッチした、真の意味での「コミュニケーション能力」の向上を目指したカリキュラムデザインを充実・発展させてきた。	2022年4月（2年コース）、10月（1年半コース）に2年ぶりとなる新入生を迎えた。国籍の異なる学生同士が日本語を媒介語として意思疎通を活性化させることが、全体の日本語運用能力の伸長のみならず、異文化理解能力の育成にもつながっている。教室でのアウトプット活動や教室外での社会活動等を重視することにより、コース目標である「コミュニケーション能力」の習得を目指した授業が展開できていると考える。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	コース目標達成を見据えたカリキュラムおよびシラバス内容は現状では問題はないと考える。今後は、来日前の日本語学習スタイルからのスムーズな移行のための工夫が必要であろう。また、今後学生数が増加することに伴う新たな課題への対応が求められる。	○医療介護施設で活躍できる人材育成という視点でのカリキュラムが十分に考えられている。 ○日本の伝統や文化を理解して国際交流を図れる人材育成という点も十分意識されている。
2. カリキュラムに卒後の職場のニーズをどのように反映していますか	当科修了後の学生の進路は、介護福祉士養成のための専門学校進学または特定技能（介護）による就職に絞られてきている。これらの学生達のニーズに即した日本語能力の獲得を目指した教育を行うべく、カリキュラムに「JLPT 対策講座」や「介護の日本語」「介護職員による出前講座」などを取り入れるなどの工夫・挑戦を続けている。	「介護の日本語」では、高齢者体験や介護現場で使用する基本的な語彙・漢字・声かけ表現などを学んだ。 また、「介護職員による出前講座」では、「介護」という専門分野を客観的・多角的に認識する機会を学生に与え、介護福祉士としての社会的・職業的自立を目指すためのキャリア教育としての役割を果たしている。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	現在実施している定期的な学生との面談によって学生の進路ニーズを正確に把握するとともに、「異文化で働く」ということ、社会の一員として身につけておくべきこと等について具体的に言語化し、普段から繰り返し伝え導いていくことが必要であると考え。	○関連医療法人と連携して職場のニーズを把握し、介護の現場で必要とされる能力を身につけて卒業できるよう対応できている。 ○「JLPT」「介護」など、具体的な取り組みを実践している。

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
3. 授業科目の学年進行や時間配分は適切ですか	入学時のクラス編成から学生の学習進捗度に応じて柔軟にクラス編成と講師配置を行っている。現状では言語学習に必要な少人数クラスの状況がある程度確保できている。(1クラス12名まで)	1年半コースの学生は学習時間及び進路決定までの時間が短く、十分な日本語能力の養成という点において課題が多いと考えられる。しかしながら、昨年秋に入学した1年半コース4名は、シラバス編成の工夫等により、2年コース生を凌駕するほどの日本語能力の伸長を見せており合同での活動も可能になってきた。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	1年半コース生については、入学時点である程度の日本語運用能力を保持していることが望ましい。学生募集時から明確なキャリアパスを学生に周知しておくこと、また無理なく2年コース生に合流していける合理的なシラバス作りを更に練っていく必要がある。	○適切かつ良好である。 ○入学時期・コースの違いを考慮したシラバスが考えられている。 ○学生募集において、入学時期・コースの違いを明確にすることが大切。
4. シラバス(授業要項)を作成していますか(内容は適切ですか)	学生の状況やニーズに応じて、常に見直しをしながらコース毎のシラバスを作成している。当該シラバスは、各レベルを担当する教員により実施され、そこで得られた情報は以降のカリキュラム編成に反映される。	学生のニーズや状況の変化に応じて柔軟に検討や見直しをすることができている。今年度はコース前半でのシラバスに「発音学習」を取り入れ、挨拶表現・介護の声かけ表現等を用い日本語のリズム・アクセント・イントネーションの感覚を身につけることを目標に集中的訓練を行った。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	各教員間でシラバスの内容についての理解を深め、具体的にどのような形で運用していくべきか常に話し合いをし、改善点については随時検討していく必要がある。コース後半では、日本社会や文化についての基礎知識やビジネスマナー教育を授業に取り入れていきたい。	○適切かつ良好なシラバスが作成されている。 ○日本語能力だけでなく、文化やマナーについても身につけるべき知識・技能として取り込まれている。
5. カリキュラムの見直し体制はどのようになっていますか	日々蓄積され全教員に公開される授業報告や、資格外活動先である介護施設職員からの声等をもとに、学科運営会議等で随時進度・教材・クラス編成等についての見直しを行っている。	教育実績等から考え、一昨年度来行ってきたカリキュラムの見直し、教育目標の達成に大きく寄与していると考え。また、来日前にオンラインによる学生との個別面談の実施することにより学生のレディネスを把握し、カリキュラム・シラバス見直しに反映させていることが、円滑なコース運営につながっている。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	今後も学生の来日前に得られる情報を教室活動およびゴール設定に柔軟に反映させ、常に見直しを続けていくことが肝要である。	○随時、良好に見直しがなされている。 ○見直しが結果にまでつながっている。今後も現状を把握して見直しを続けていくことが大切。

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
6. テキストや教材をどのような基準で採用していますか	コース目標を念頭に、今年度より運用能力を重視した初級教材を新たに採用した。また、介護士養成校への進学や特定技能による就職に必要な日本語能力試験対策教材を学生のレベルやニーズに応じて採用している。	新たな初級用教材の採用により、単なる文型の学習にとどまらず「学習した文型が生活の中でどのように使用できるか」に焦点が当たり、教室活動の質が大きく変わった。それにともない学生の発言量も増え、日本語運用能力を重視したアウトプット活動中心の授業が展開できている。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	教育方法等も日々新しくなり、効果的に学習が進められる教材も日々新しいものが生まれる。常に教材研究に費やせる時間を確保し、新たな取り組みを目指す必要がある。	○学生のレベルやニーズに合わせた選定による効果がみられている。 ○卒後の学生からも意見を募り、テキスト選定に役立てるといいのではないかと。
7. 目標とする教育効果を踏まえて適切に成績評価を行っていますか	基本的言語能力（「読解」、「文法」、「文字語彙」、「聴解」）の知識に加え、運用能力についても「会話」「作文」「介護の日本語」の試験を実施し、成績評価を行っている。	言語知識に対する評価と、それらの言語知識をいかに運用できるかについての評価を筆記試験と口頭試験によりバランスよく行おうとしている。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	現在は日々の提出物や小テスト等の結果も成績評価に反映させている。 今後の学生数の増加を視野に入れた信頼性かつ合理性の高い評価法を検討していく必要がある。	○適切な評価を行うための取り組みがなされている。 ○評価法の選定が必要。
8. 学生の理解度に応じて授業を柔軟に進めていますか	レベル別クラスによる JLPT 対策授業、グループワーク等によるアウトプットを主眼に置いた技能別授業等、学生の能力や授業の目的に応じた活動を展開してきた。	学生の理解度は個人によりかなりの差が出てきている。現在の授業運営は学生の能力や理解度に応じたクラス設定がある程度可能となっている。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	今後学生数の増加に伴い、語学学習環境（クラスサイズ）のあり方を検討する必要がある。学習システムなどを利用し、学生が自律的に学習を進めていけるような環境整備が課題となろう。	○理解度に応じた授業が行われている。 ○能力・理解度の個人差にいかに対応していくか、今後も検討を続けてほしい。
9. 学生の学力不足を補うための教育をとくに実施していますか	学力不足が認められる学生については、課題を与えたりオンラインによる補講などで、クラスでの学習に追いつく補助としている。	授業内外でのフォロー体制や個々の学生とのやり取りについては、メッセージングアプリ（Slack）を利用しきめ細かなサポートを行っている。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	学力不足の学生への迅速な対応が肝要であることは言うまでもないが、社会的・職業的自立までのトータルな日本語学習の一時期を担っているという長期的な観点からのサポートも必要である。	○適切に実施されている。 ○迅速な対応と長期的視点からの対応と、双方の視点で学生一人一人に対応を続けることが大切。

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
10. マナー（喫煙指導などを含む）やしつけの教育や指導を行っていますか	全教員と通訳を含めた事務職員が協力し、学生の出身国とは異なる習慣（特に時間の厳守、衛生、マナー等）についての指導をしたり、日本語の授業などを通じて日本人の行動規範や思考様式などを学ぶ授業を行っている。	入学時のオリエンテーション、またコース後半を中心とした授業内で、日本社会における基本マナー等についての理解を深める教育を行っている。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	全ての事柄について短時間で伝えることは難しく、理解度にも個人差があるため、今後も教職員とアルバイト先職員が情報共有を密にし、一丸となり繰り返し忍耐強く指導を継続していく必要がある。（既に学校と職場の連携のための会議を定期的実施している）	○適切に指導が行われている。 ○文化の違いを理解することの大切さを日頃から学生に伝えようとしている。 ○文化の違いもあるため、1回の指導で改善されないこともあると思われる。長期的に指導し続けていくことが大切。
11. 教育技術（教育方法）の研修・研究を実施していますか	研究会や学会等への参加を奨励し、得られた知見について学科内教員で共有している。また定期的に外部の日本語教育機関との情報交換も行っている。	今年度は国内外の学会において論文・口頭による発表を行い、当校日本語科の取り組みや研究成果を発信し、予想以上の反応や学びを得ることができた。得られた知見を教員間で共有し、更に研鑽を積み新たな挑戦をしていきたい。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	理論と実践のバランスが取れた教育活動の展開を目指すとともに、その成果について広く社会に伝えられるよう研究発表等による情報発信を行っていきたい。	○意欲的に良好な研修・研究が実施されている。 ○引き続き研鑽を続け、教員間で共有することで学科全体のレベルアップを図ってほしい。
12. 学生による授業評価を実施し教育改善に反映していますか	学期末にアンケート（選択肢、自由記述による）や個別面談等を行い、学習内容や授業、及び留学生活への評価を聞き取り、教員間で共有し、授業運営に反映させようとしている。	授業全体及び科目毎の授業評価を行うことにより、コース全体のみならず担当教員に対する評価も把握できるようになっている。今年度の学生は、自分が苦手な活動を行う授業を低く評価する傾向があるという印象を持った。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	留学生は授業に関する不満があっても表出しないことがある。聞き取る項目や方法を検討し、思いが反映される授業を展開したい。一方で、教育目標についてはぶれることなく教員間で一貫性を持って学生に示していきたい。	○授業ごとのアンケートや学生との面談等、多角的に評価を実施し、反映へつなげている。 ○教員と学生がより親密になることで、意見を発しやすくなるのではないかと。

## 2 施設・設備

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
1. 教室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	教室の数は十分であるが、施設整備の点から、聴解や保温等について課題がある。	教室の数と広さは十分である。 イスラムの学生のために祈祷室も設けている。 休憩時間に学生達を楽しめるよう、卓球・バドミントンなどの用具も揃えている。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	授業活動に必要な教具や機材、授業研究に必要な機材を充実させる必要がある。	○必要な施設は適切にそろっている。 ○さらに必要なものは早急に準備する必要がある。
2. 図書室を設け蔵書を適切に揃えていますか(有効に活用されていますか)	図書室および書棚を設置し、多読教材をはじめとする書籍が閲覧できるようにしている。また自律学習用に日本語読解学習支援システムなども紹介している。	今年度若干の多読用教材の補充を行ったが、まだ書籍の点数が少ない。今後、多読に慣れるため、学生が興味のある幅広い分野の蔵書の充実が必要である。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	教材費の充実、不要となった書籍の寄付を募る等の方法により、第二言語として日本語を学ぶ学生が満足できる内容の蔵書を充実させていきたい。	○適切に備えている。 ○十分でないところは早急に準備する必要がある。 ○寄付等、まずは学内や関連法人内で協力を仰いでみては。交流が生まれる等、他のプラス効果が生まれるかもしれない。
3. 実習・実験室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	実習等は行わない。		5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分		
4. 最新機能を備えた視聴覚機器や情報機器は足りていますか(有効に活用していますか)	プロジェクター等は利用しやすい環境にある。 学生のクラスワークなどのコミュニケーションツール確保のためにWi-Fiが設置されている。	効果的な授業活動を行うのに必要なPCの最低限の設備が整ったが、非常勤教員が授業で使用できるPCは不十分である。今後の学生数増加に伴い、円滑な授業の流れに支障をきたすことのないようなデジタル環境の整備に取り組んでいく必要がある。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	学習時間の短さを補うため、今後LMS(Learning Management System)等の利用による教室外学習や反転授業の可能性についても検討していきたい。	○機材は適切に揃っている。 ○さらなる充実を図り、教育効果を高めていけるとよい。

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
5. ニーズに応じた学生寮を保有していますか(有効に活用されていますか)	留学生全員に寮が安価な価格で提供されている。 講義棟に併設している現女子寮に 来年度から男子寮も加わる予定である。(男女別)	寮内の施設備品等について不具合の生じたものは、適宜、改善及び改修を行っている。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	寮には日本人学生もいるため、学生寮での生活を日本での貴重な学びの場として捉えていきたい。	○適切かつ良好な学生寮が提供されている。 ○寮母や職員も学生に親切かつ教育的に関わっており、勉強以外の学びの場となっている。
6. 体育館や運動場などを保有していますか(有効に活用されていますか)	コロナ禍で資格外活動が休止となり行動制限を余儀なくされた折、運動不足解消・リフレッシュの目的で学生に体育館でスポーツをする機会を提供した。	体育館や芝生広場は、学生や法人の関係者をはじめ、近隣住民の方々にも開放し活用されている。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	今後、充実した学生生活を目的とした更なる有効活用を考えていく必要がある。	○適切かつ有効に活用されている。

### 3 学生サービス

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
1. クラス担任制をとり修学に問題のある学生に対して適切な対応を行っていますか	各レベルの専任教員が成績等の管理を行うとともに担任業務も行っている。また、各教員が相互に他のレベルの担任業務をサポートする体制が整えられている。	学生の学習面、生活面は主として担任が他の教員と連携して把握に努める。 主任は教員からの報告により状況を把握し対応する。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	現状は全教員が全学生の状況がある程度把握できているが、今後学生数、クラス数の増加に伴い、授業を担当しないクラスについては該当クラスの学生の把握は難しくなると思われる。	○適切かつ良好に対応できている。 ○担任が全教員と連携がとれている。



項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
2. 学生に対してカウンセリング(心理相談)を行っていますか	各学期末に通訳を介した母語による面談を随時行い、状況の把握を行っている。 (通訳は事務職員・介護施設職員である卒業生が担当) また関連の医療施設にカウンセラー(日本人)がおり、必要に応じて個々に相談できる体制が整っている。	これまでのところ大きな問題は起きていないが、今後人数の増加に応じて、現在の運営が難しくなる部分があると考える。 語学力の問題でカウンセラーに本人が直接相談できる状況にはないためプライバシーが守られにくい上に、異文化理解の知識のある専門のカウンセラーがいないことが課題である。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	寮やアルバイトなど学生の生活全般に関するカウンセリングを含めた「生活指導」や通訳スタッフの拡充が必要である。	○適切に行われている。 ○人員の増員が必要。 ○語学の壁を感じず何かあればいつでも気軽に相談できるよう、さらなる体制の強化が望ましい。
3. 教室以外に休憩スペースが適当に置かれていますか	教室前に広いロビーがあり、ソファやテーブル、十分な備品及びスペースが確保されている。	ロビー内は季節に合わせた日本の年中行事にまつわる飾り物や学生の成果物などを設置し、温かみのある空間になるよう工夫している。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	将来的には未利用部分を整備し、留学生が地域の方々などと交流できるような空間づくりが望まれる。	○十分に確保されている。 ○さらに交流が生まれるスペースが出来るとなおよい。
4. 食事場所や売店などのスペースが設けられていますか	二部制であるため、ロビー内で食事を取ることは少ない。売店はないが、弁当の注文販売があり、自動販売機も十分設置されている。ロビー内に電子レンジや電気ケトルなども設置した。	全員が校内で食事をとることはあまり多くないが、休憩時間に暖かいコーヒーやお茶を入れるなどして、学生達がほっとできる場を提供できている。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	食事場所については十分である。売店については近所にスーパーやコンビニがある。	○食事場所は十分に確保されている。 ○近所のスーパー、コンビニも利用でき、時間を調整して自由に必要な買い物もできている。
5. 学校独自に奨学金や特待生制度を行っていますか	学校独自の支援制度として、診療費補助制度がある。	学校独自の奨学金制度はないが、納付金自体を低く設定している。留学生が利用できる学費減免等はないものの寮費等を安価に設定していることが生活への支援となっている。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	成績優秀者等への奨学金が更に充実していけば、学習動機の向上につながると思う。	○寮費や学費の支払い、アルバイトの調整など、金銭面での制度や支援は柔軟に行われている。
6. その他	特になし				

## 4 教育面などでの特筆すべき取り組み（自由記入）

※学内においてこれまで記入したこと以外に、教育、施設・設備、学生サービス面での特筆すべき取り組み

- ・今年度は留学生が学校祭や地域のイベントに積極的に参加し、教室外の人々とのつながりを持つ機会が増え、日本語学習への動機づけや日本人・日本文化理解への大きい一助となった。
- ・日本、日本文化等への理解を深める機会を与える工夫として、お正月文化体験をはじめ各種行事をカリキュラムに取り入れている。今年度のお正月文化体験（着付け、書き初め、茶道体験）では、地域ボランティアの方々の全面的な協力をいただき、地域住民との交流を図る貴重な機会となった。
- ・近隣地域との連携の一環として、朝のあいさつ運動や清掃活動に参加している。
- ・教員は学生のアルバイト先である介護施設との連携に力を注いでいる。介護施設の日本人職員を対象に異文化理解講座を実施したり、日本語科の活動や学生の母国の文化等を紹介する「日本語通信」という発行物を毎月全職員に配布したりすることにより、日本人側の異文化理解についての意識づけを図り、留学生と日本人職員をつなげる橋渡しの役割を果たそうとしている。
- ・各学期末に希望者対象にオンラインで留学生の保護者との面談を実施している（通訳付）。母国の保護者に日本での生活の様子を詳しく知らせることで、家族に安心感と信頼感を持ってもらえるような取り組みを行っている。

※学校関係者コメント

○関連法人と連携のもと、アルバイトや日本の文化体験、近隣地域との連携などを積極的に取り組んでいるところが非常に評価できる。

○アルバイト先関連施設との関係性が非常に良く、様々な経験をさせてもらえているように見受けられる。今後もWinWinの体制を強化していけるとよい。

○卒業後、理学療法学科に進学してPTとして系列病院に就職する学生や、関連の看護学校へ進学する学生も出てきたとのこと、後輩のロールモデルとなる学生の輩出を今後も期待したい。